

渡航費・輸送費カンパにご協力をお願いします。

渡航期間：8月中旬に2週間程度を予定

渡航予定者：今川夏如 他数名

皆様からいただいた支援金(カレンダーやグッズの売り上げ、サポーターの会費)は渡航費には使いません。これは2002年の当初から決めていたことです。ですが、正直安い金額ではありません。現地からの要望により事前に購入していくものもあり、荷物を運ぶだけでも費用がかかります。個人的な負担が大きく、帰国後の継続的な活動をささえるためにも、毎回カンパのお願いをすることにしていきます。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

■カンパおよび支援金の振込先 ※1口3,000円 ※通信欄に渡航費カンパとご明記ください。郵便振替 00160-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊 ※カンパは8月末まで受け付けています。

■今回の渡航の目的

1. アフガニスタンでの活動を継続し、それを日本のサポーター、および一般の人々に伝えるための情報収集・取材活動。
2. カレンダーの支援金約150万円(うち60万は送金済み)を現地に届ける。
3. サポーターの会費を現地に届ける。
4. サポートカレンダー2008の取材。
5. 要請・支援物資等を現地に届ける。
6. 現地関係各機関との関係作り。
7. バーミヤンで開催される子どもフェスティバルへの参加。アフガニスタン側から、今までの日本との交流も踏まえ、ぜひ来て欲しいとの要望がありました。
8. 上記の目的を果たすために必要な経費(人件費を除く)を捻出する。 ※治安情勢など総合的に判断し、適宜中止、延期、緊急帰国等の措置をとる。

■渡航予定者から

今回の渡航で6回目になります。支援金の総額も今回の渡航で持って行く分をいれると、もうすぐ5年になるこのプロジェクトですが、600万円を超えています。みなさまからのたくさんのご支援・ご理解・ご協力、誠にありがとうございました。私たちの活動に、みなさまからのカンパは欠かせないものとなっています。ポストカードができたのも、カレンダーができたのも、子どもたちの来日公演ができたのも、支えていただいた皆様のおかげです。

私事ですが、去年はMMCCの来日公演はもとより、結婚・長女さら誕生を経て、新たな気づき、学びがたくさんありました。まだまだこれから知るべき事、学ぶべき事が多いと思いながらも、アフガニスタンに行くことが正直、怖くなりました。私の著書「トモダチニナルタメニ」にも書きましたが、私がアフガニスタンに行った理由は、本当にささいなことでした。今回が初めての渡航だとしたら、絶対に行かないと思います。危険がないと言えども、そになり、死にたくはないし、死ねません。ただ、アフガニスタンにいる子どもたちや、仲間たちは、すでに私の人生の一部となり、私が私らしくいることを支えてくれていることも間違いありません。彼らとの関係を絶つこと、会いに行くことをやめること、それは、私にはできない選択になっていました。渡航予定が近づいても、カンパのお願いをできずにいたのは、そんな葛藤もあったと思います。昨日、現地からメールが届きました。「みんな待ってるよ。」と。「すぐ行くよ～」と返してしまいました。それでは、行ってきます。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

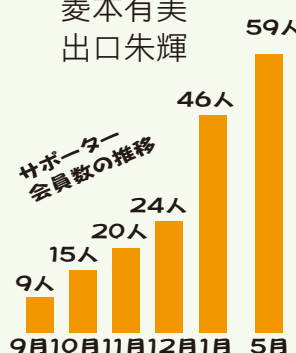
NPO 法人みんなの夢の音楽隊 代表
JAPAN-MMCC 代表
今川 夏如

サポーターを募集しています！

会費は1口300円/月です。全額がアフガニスタン MMCC に送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、年4回、現地の様子を伝える「MMCC ニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポートグッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

2007年2月～2007年5月
ご入会のサポーター♪

只野右晏	上石しょう子
鳥羽恵	山田博子
加藤久美子	箕輪信一
土屋真美子	菱本有美
秋元節子	出口朱輝
松本由美子	
越河澄子	
木内紀子	
橋本幸子	
上石正明	



あなたもサポーターになりませんか！？

みんなの夢の音楽隊は、内部活動グループとしてのJAPAN-MMCCを継続し、これからもアフガニスタンの子どもたちとの交流や、活動の連携を続けていきます。アフガニスタンの治安状況は悪化の一途をたどり、日本で見聞きすることはどれも残念なニュースばかりです。しかし、子どもたちの役割は、戦争に参加することではありません。戦争をやめさせることは大人たちの役目です。子どもたちは、将来の世界を楽しむものにするために、今を大切に楽しむことが仕事です。そして、その楽しさを、よりたくさんの子どもたちと共有することが、彼らの役割です。そんな子どもたちをサポートすることが、MMCCをはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援♪どうぞよろしくお願いいたします。

MMCCニュースの配布先を紹介してください♪ このニュースは、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。

NPO法人みんなの夢の音楽隊 会員募集中

NPO 法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。

私たちの活動に賛同し、協力してくださるメンバーを募集しています！

正会員	年会費 1口 10,000円	毎月 1回ニュースをお届けします。活動を支えてください♪
賛助会員	年会費 1口 3,000円	毎月 1回ニュースをお届けします。
団体賛助会員	年会費 1口 10,000円	共同企画事業を行います。会員割引の適用が受けられます。
MMCCサポーター	月会費 1口 寄付300円	年4回 MMCC ニュースをお届けします。※全額現地送金。
※メールアドレス	1アカウント 3,150円/年	

お問い合わせ TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772 info@yumeuta.com
郵便振替 00160-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊

MMCCニュースに関する感想・アイデア・ご意見をお寄せください。お待ちしております。



特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊
〒330-0053 さいたま市浦和区前地 2-11-2
TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772
発行人 JAPAN-MMCC 代表：今川夏如
年4回発行(2月5月8月11月)

Afghanistan Mobile Mini Circus for Children

2007年5月15日 (Vol.2)

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける！



新メンバー レザ・ユセフ・カリム

オーディションでは、4人の候補者が選ばれました。そしてその4人はカブールのカルチャーセンターで研修を積み、最終的に3人がMMCCの新しいスタッフとして迎えらるることになりました。

彼らは25歳～28歳、それぞれバーミヤンの大学で教育課程を修了したばかりで、アフガニスタンではいわゆる将来有望な若者です。彼ら自身、卒業したばかりの頃は、給料の良い警察か軍隊にいたいと考えていました。また、それくらいしか就職先が無いという現実もあります。しかし、子どもが好きであることや、自身が持っているアーティストとしての技術を活かした仕事に就くことを彼らは選択したのです。



▲左から、レザ、ユセフ、カリム

自然ゆたかなバーミヤン▶

まずは小さな コンテナから

MMCCは、ローカルなNGOであり、海外に大きな母体を持っていません。ですが、それは、「あるもので工夫する。お金のかからないアイデアを！」の基本になっています。アフガニスタンには様々な国からいろんなものが運び込まれています。それはコンテナに積まれてやってくるわけですが、その使い終わったコンテナを譲り受けることになりました。そして、そのコンテナを倉庫にして、バーミヤン支部を運営していくことになりました。スタッフの

続・バーミヤンに こどもの城を築く！

創刊号でご案内したバーミヤンでの新プロジェクトの続報です。MMCCは冬のシーズンが終わる前から継続的にバーミヤンを訪問し、バーミヤン支部設立に向けて準備を進めています。

オーディション！

MMCCが初めて設立されたとき、最初のメンバーはどうやって集められたのか。それはオーディションです。カブールの各紙に募集記事を掲載し、一般公募のオーディションを開催したのです。それはバーミヤン支部を作る際も同じです。ワークショップを重ねつつ、公募により集まったメンバーから、表現技術や、基礎知識、とくに表現の仕方を評価基準としオーディションを行いました。自由に自己表現をするオーディションでは、表現力が豊かであっても、表現しようとするものが悲しいものであったり、暴力的であった場合は、選考からはずすようになっていきます。子どもたちを喜ばせ、楽しく、明るい未来を想像させる表現を求めているからです。

3人は、それぞれバーミヤン州に住んでおり、自宅からそのコンテナ倉庫に集合し、そこから活動を展開する計画です。そしていつか、カブールのよう大きなカルチャーセンターを手に入れよう！最初は小さな一歩から。私たちの夢はいつだってここから始まりま



カルチャーセンター 体育館のその後・・

建設中だったジムナスティックホールは、壁と屋根が完成し、使える状態になりました。本来、扉と窓を付けるのですが、元気な子どもたちの前ではあまりに無力なため、現状このままで使うかどうかを検討中です。男の子達のアクロバットや組体操の練習の他、ドイツのNGOと共同で女の子向けの人形劇ワークショップの開催、子ども向け教育映画の上映会場として使われています。



▲屋根と壁が完成した体育館

ミニミニミニミニ モバイルサーカス

当初、MMCCでは、対象年齢は10歳前後の子どもたちでした。しかし、その弟や妹たちは、お兄さんお姉さんにくっついてはカルチャーセンターにやってきます。そして授業のじゃまをするのです。英語の授業も、コーランの授業も、文学も、歌も、ジャグリングも、見よう見まねでなんでも挑戦している小さな子どもたちの姿に、大人達は小さな教室を創ってやりました。



▲右から2番目が昨年来日したアンソル

MMCCってなに？初めて聞いたよ？なにをやってるの？という方へ♪

日本のみなさん！初めまして！アフガニスタンMMCCです。わたしたちはアフガニスタンで設立されたNGOなので、海外に母体を持っていません。しかし、最初からのメンバーの中に、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議な縁で、日本にたくさんのトモダチができました♪このニュースは、そんな日本にいるトモダチが私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかく読んでいただい

日本のトモダチは どうしてますか？

昨年日本にやってきたトモダチはどうしているんだろう。彼らが帰国してすぐに、毎年恒例のカレンダー作りに取りかかりました。今年の2月になってやっと、アフガンのトモダチの元にカレンダーが届けられました。まず最初に自分を探し、そして日本のトモダチを探し、口々に名前を呼んでいました。サミシー。ダイスキ。トモダチ。そんな言葉がちらほら。今度はいつ会えるの？と。



▲カレンダーに見入る来日メンバー

その指導に当たったのが、昨年来日したメンバーのひとりアハマッド（11歳）でした。ウィンタープログラムの修了式に初めて出演したちびっ子サーカスはその技術の高さで大人達を仰天させました。そして今ではMMCCの活動の一翼を担う活動に発展し、努力を認められた証として、舞台衣装が彼らにも創られました。子どもたちの足下には、日本から持ち帰ったジョイント式のミニエクササイズマット（MMCCの4色カラー）が見えます。

4歳～7歳の小さな子どもたちは、カルチャーセンターのチーフトレー



▲演劇も子ども向きのものにアレンジ

るので、少しでも私たちの活動を知ってもらい、もし、気に入ってくれたら私たちの活動を支えるサポーターになってくれませんか？ニュースを読んでもわからないこととか、もっと知りたいことがあったら、日本にいるトモダチになんでも聞いてください。遠いところにいるけど、私たちはいつも一緒に活動しています！！アフガニスタンでは大きく次の4つのプログラムを行っています♪



▲カブールの孤児院にて

日本公演でやったパワフルボーイの演目を現地でもやっています。子どもだって強いんだ！ちょっと頭をつかえば、ほうらこの通り！



▲公演先から歩いて帰る来日公演チーム



▲MMCCメンバー勢揃い!!!



▲子どもたちのトレーニングの様子

ナー、シャヒール先生（24歳）や他のスタッフによるトレーニングを重ね、カブール市内の幼稚園や保育所にパフォーマンスをしに行きます。ジュニア（8～12歳）同様に、同年代の子どもたちの前でパフォーマンスを行っています。人気なのはアクロバットや組体操。正義のヒーローに憧れるのは世界共通なのでしょうか、力強いパフォーマンスが大好きです。※幼稚園や保育所は、各省庁や病院、学校など、大量の職員がいる機関に併設されているのが一般的で、日本のような広く一般化されたものではありません。

移動サーカス（モバイルサーカス）

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった生活に必要な知識を伝えています。※写真は「手を洗おう！」



モバイルサーカス &ワークショップ in カンダハール

アフガニスタン南部の都市、カンダハールにモバイルサーカスチームが訪れ、パフォーマンスとワークショップを開催しました。アフガニスタンで地雷回避教育など様々な支援活動を展開している日本のNGO「AAR 難民を助ける会」と、国連アフガニスタン地雷対策センター（UNMACA）の共同プロジェクトです。

私たちMMCCが、演劇による教育で最も力を入れていることは、どれだけ真剣に子どもたちに大切なことを伝えるか、そして、なおかつそれをおもしろおかしく表現できるか。どれだけ



▲地雷回避の演劇。リハーサルの様子

ボクになに ができる？



前号でバーミヤンのワークショップについてご紹介しましたが、ここカンダハールでも同じです。まず演劇を観ます。地雷回避教育の他、衛生教育、平和教育を目的とした演劇を通じ、子

子どもに・カルチャーセンター

15の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがある。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達が自由に遊び回り、たいたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。



地雷の恐ろしさ、 君たちは、本当に 知ってるのか！？

恐ろしいものか、怖いものかを説明したところで、興味本位で子どもたちは手を出してしまいます。そして、取り返しのつかない痛手をこうむることになります。アフガニスタンに住む人々は、地雷との共存を強制されています。少しずつ、少しずつ地雷の撤去はすすんでいます。しかし、すべてを取り去ることは不可能ともいわれています。地雷を埋められた大地には、もう安心して暮らすことはできません。地雷は、だれかの未来を奪うそのときまで、じっと地面の中にいます。なにかにお願い続ける生活は、子どもたちの心に暗い影を落とし、その原因である、紛争、外国人、アフガン社会そのものに不信感を抱かせてしまいます。大切なのは正しい知識を身につけ、安全な場



▲カンダハールの学校でのワークショップ

どもたちは様々なことを考え始めます。その後ワークショップを通じて、いろんなことに挑戦してみます。最終的には、ひとりでは絶対できないことを、みんなで助け合いながら完成させていきます。そして、それを大きな舞台で披露するのです。子どもたちは観衆からたたえられ、自信と誇りと達成感をもって舞台を降ります。舞台を観ていた子どもたちは、そんな彼らに「あこがれ」を抱き、大きな向上心と、新しいものへの好奇心をもちます。それ

ワークショップ 実践！実感！実現！

実際に子どもたちの手で何かを創りあげる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければならないことをやってみる。社会の中での役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。



▲地雷回避教育の演劇と地雷の説明。演劇を見ている子どもたち▼



所で気持ちよく遊び、健やかに成長していくことです。与えられた環境の中でそれを最大限実現させてあげたいですね。

カンダハール州は、現在治安が非常に悪く、都市部での活動だけに制限されています。治安回復のめどもたっていない。子どもたちを紛争に巻き込まないために、夢と、笑いと、教育を届け続けなければなりません。MMCCは小さな試みですが、他の組織とも連携して活動を展開していきます。



▲生まれて初めての舞台。緊張してる！

は、子どもの未来のすべてに良い影響を与えてくれるものです。

私たちがなによりも大切にしていることは、「みんなで助け合って生きていくこと」を学ぶことです。同じ国の中で争うこともなく、民族の違いを超えて助け合う社会を創っていかなくてはならないからです。それを子どもたちに教えてあげられるのは、「戦争をしない大人たち」です。

ティーチャートレーニング（教員養成）

長い戦争で教育インフラの85%が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっています。子どもの興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、MMCCの最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。

